# 科研費

# 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 3 年 5 月 1 7 日現在

機関番号: 12601

研究種目: 基盤研究(C)(一般)

研究期間: 2016~2020

課題番号: 16K02232

研究課題名(和文)「共通感覚」の美学(史)的再定義

研究課題名(英文) The Idea of "Common Sense" Revisited

#### 研究代表者

小田部 胤久 (Otabe, Tanehisa)

東京大学・大学院人文社会系研究科(文学部)・教授

研究者番号:80211142

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文):「共通感覚(koine aisthesis, sensus communis)」という古典古代から伝わる概念に 二つの系譜があること、すなわち「共通の」という形容詞の意味の相違に応じて、五感に共通の感覚というアリストテレス以来の系譜と、他者と共通の見解(いわゆる常識)というキケロ以来のローマ的系譜とがあること、これは広く認められた通説である。この通説に対して本研究は、(a)これら二つの系譜が歴史的に交叉していることを明らかにするとともに、(b)この交叉のうちに再構成される問題圏が、20世紀末から 感性論的転回 を遂げつつある「美学」の現代的課題にとって中枢的な主題をなすことを示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義 すでに日本において共通感覚論は、哲学者の中村雄二郎、精神病理学者の木村敏らによって、独自な展開を遂げ たが、本研究は美学的な視点から共通感覚に新たな視点を提起した。その成果の一部は、『美学』(東京大学出 版会、2020年)という一般書(とりわけ第六章)のうちに示し、研究の社会的還元を行うとともに、学術的には The Journal of Aesthetics and Phenomenology の特集号 The Unconscioius の編集をとおして国際発信し た。

研究成果の概要(英文): We have been experiencing an "aisthetic turn" of aesthetics which focuses neither on our artistic experience or creation, nor on the idea of beauty, but on the aisthesis's role in our aesthetic appreciation, or rather on our aisthetetic consciousness of our being. The purpose of this research is to revise the idea of "common sense" of Aristotle and Kant, aiming at reorganizing and reanimating their insights and thereby contributing to an "aisthetic turn" of aesthetics.

Based on commonly held beliefs, there are two strands in the idea of "common sense": the Aristotelian idea of something intra-subjective and the Ciceronian idea of something inter-subjective Kant's concept of common sense is regarded as belonging to the second strand. In contrast to such beliefs, I argue as follows: first, that in Aristotle there is already a productive germ of the second vein and, second, that Kant's aesthetics succeeds prominently Aristotelean concept of common sense.

研究分野: 美学芸術学

キーワード: 共通感覚 美学 感性論 感性論的転回

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

#### 1.研究開始当初の背景

本研究は、科学研究費基盤研究(C)「感性の理論史――美学(史)の再構築のために」(2012-15年、課題番号 24520101)の研究から新たに生まれた課題を遂行するものである。「感性の理 論史」と題された研究において、私は主として(1) 西洋美学を「感性」論として捉え返すに当た っての枢要な諸主題の歴史的解明、(2) 感性の理論における文化的・歴史的制約についての解明、 (3) 感性工学とのかかわりから従来の美学理論を捉え返し、美学と感性工学との対話可能性を示 すこと、という三つの軸を設定し、(とりわけ(1)と(2)については)予定していた以上の研究成果 を得ることができた。(1)の研究を遂行するに際して私は当初「共通感覚」の問題を慎重に避け ていた。その理由は、「共通感覚」(この語はアリストテレスの『魂について』において初めて用 いられている)という主題がアリストテレスにおいても、またその後の思想史においても、あま りに複雑な様相を呈しており、それに立ち入ることは「感性の理論史」の検討に無用の混乱をも たらすのではないか、とおそれたからである。ところが、アリストテレスの「共通感覚」論を検 討するうちに、それは通常理解されているように 諸感覚に「共通なもの」の感覚 (たとえば 運動を視覚と触覚で感覚すること)を意味するのみならず、 諸感覚を跨ぐ感覚 (たとえば甘い ものを白いと感覚すること)、さらには 感覚の感覚 (自分が感覚していることの知覚 = 自覚、 すなわち 高階の感覚 としての感性的次元における自己反省性)でもあることに気づき、そこ に近代的な(すなわち精神ないし知性に帰される)「自己意識」とは異なる 感性的意識 のあ り方を探る手がかりがあるのではないかと考えるにいたった。

#### 2.研究の目的

「共通感覚(koine aisthesis, sensus communis)」という古典古代から伝わる概念に二つの系譜があること、すなわち「共通の」という形容詞の意味の相違に応じて、五感に共通の感覚というアリストテレス以来の系譜と、他者と共通の見解(いわゆる常識)というキケロ以来のローマ的系譜とがあること、これは広く認められた通説である。この通説に対して本研究は、(a)これら二つの系譜が歴史的に交叉していることを明らかにするとともに、(b)この交叉のうちに再構成される問題圏が、20世紀末から 感性論的転回(aisthetic turn) を遂げつつある「美学」の現代的課題にとって中枢的な主題をなすことを示す。このことをとおして、(c)美学史研究が同時に今日の美学の根本問題を構成しうることを実証し、人文的歴史研究の今日的意義を改めて問い直す。

4年間に及ぶ本研究は、大きく4つの軸ないし部門からなる。(1) アリストテレス カント アーレントの軸の再構成。アリストテレスに関しては、『魂について』における「感覚の感覚」 という議論が、いかにして『ニコマコス倫理学』では「活動の感覚」「存在(すること)の感覚」 ないし「生(きること)の感覚」という主題を介して「友人が存在していることをともに感覚す ること」という議論に接続しうるのか、が焦点をなす。カント『判断力批判』にあっては(アリ ストテレスにおける理論展開とは反対に)(自己の内なる)「生の感情」が「認識諸能力の活動 の感覚」を介して(他者に普遍的に妥当する)「共通感覚」に接続する、その議論の流れが、ア ーレントにあっては、彼女がアリストテレス(およびトマス・アクィナス)由来の(五官を束ね るという意味における / 共通感覚」を(カントの改釈を介して / 他人と共有される共通の世界」 の成立に不可欠なものとして捉える、その議論の流れが、改めて問い直されなくてはならない。 「共通感覚」の第一の軸は intra-subjective な次元と inter-subjective な次元がどのよう に結びつくのかを明らかにするものである。(2) 18世紀思想史の再検討(具体的には「研究計 画・方法」において触れる)。美学という学問を生んだ18世紀において、「共通感覚」は一方で スコットランド啓蒙主義に見られるように、「共通感覚」の第二の系譜を引き継ぐ仕方で「常識」 という意味合いを前面に押し出す(ちなみに、カント『判断力批判』における「共通感覚」は、 カントがスコットランド啓蒙主義を批判しているにもかかわらず、基本的にはスコットランド 啓蒙主義と同様に inter-subjective な次元を主題化する)が、他方で(決して目立った仕方に おいてではないが)とりわけ大陸においては 諸感覚の協働 (あるいはそうした協働を可能に する陶冶)を強調する仕方で理論化される。第二の軸は、この後者の流れ(特にルソーとヘルダ ー)に即して「共通感覚」の射程を検討するものである。(3) ヘルダーの「人間とは考える共通 感覚器官である」という言葉が20世紀にカッシーラーを介してメルロ=ポンティへといたる経 緯を明らかにしつつ、さらに 20 世紀後期の 新現象学 運動における「共通感覚」論の新たな 展開を跡づけ、あるいは(ヘルダーの議論の背景をなす)モリニュー問題に関する最新の研究成 果から 18 世紀の議論を再度読み解くこと。(4) 近代日本における「共通感覚」論の展開の解明 近代日本における西洋美学の移入は、20 世紀に入ったころから、日本に独自な伝統的芸術観の 自覚化・理論化をもたらした(そして、その点についての研究は枚挙にいとまがない)。だが、 そこには同時に日本的な感性・身体(論)への自覚も認められる。「共通感覚」という主題はと りわけ戦後になってから、メルロ゠ポンティあるいはアーレントらの影響下に、にわかに脚光を 浴びるが、そこにも伝統的な日本的感性・身体(論)が背景として機能した。本研究では、とりわけ第3年次以後において、間文化的(intercultural)な視点を導入しつつ、近代日本の美学的営為を東西の美学の動的な相互作用に即して描き出すとともに、こうした先達の試みを今日へと接続させる。

#### 3.研究の方法

本研究は「研究目的」に記したように、(1) アリストテレス カント アーレントの軸の再構成、(2) 18世紀思想史(とりわけルソー、ヘルダーの共通感覚論)の再検討、(3) ヘルダーの共通感覚論を機縁とする 20世紀の思想運動の再検討、最後に (4) 近代日本における「共通感覚」論の再読、という4つの軸からなる。いずれも思想史的研究であるが、いずれも国際共同研究という形をとる。具体的に述べるならば、国際哲学会議(北京大学)でのパネルへの参加、国際美学会議での報告、フンボルト・コレーク(東京大学・駒場キャンパス、ならびに釜山・東亜大学)での招待講演、国際シュレーゲル協会大会での招待講演、国際シェリング協会での招待講演などをとおして、研究を国際発信するよう心がける。

#### 4. 研究成果

研究成果はさまざまな形で公開したが、とりわけ『美学』(2020年9月、東京大学出版会)の第 VI 章 「構想力と共通感覚」は、本研究の中核をなす(1)について、最も明確に、かつ一般読者にも向けて記したものである。そこでは、アリストテレス カント アーレントに加えて、ドゥルーズの共通感覚論にも触れ、当初の目的をさらに拡充する仕方で果たすことができた。『美学』第 VI が従来の共通感覚論に対して附け加えた論点は三つある。第一に、カントの『判断力批判』が、「私は考える(Ich denke)」という形式を取る統覚の主導する客観的認識(これについては『純粋理性批判』が明らかにする)においてはけっして顕在化することのない人間存在の基底的な次元を、「私は私を感じる」という私の生命感情をとおして主題化したこと、そしてそれが彼の「共通感覚」論の根幹に位置すること、第二に、アーレントとドゥルーズはともに、「共通感覚」の二つの系譜が相互に関係することを明確に意識し、その点からカントの『判断力批判』を解釈したこと、第三に、アーレントが「共通感覚」の中心にあるとみなす「実在感情」は、まさにカントが「生命感情」という概念をとおして語り出そうとしたものを継承するものであること、以上の三点である。

- (2)に関しては、とりわけヘルダーの理論の再検討をとおして、研究を継続した。その成果はアメリカのプラグマティスト・シュスターマンが提唱する Somaesthetics を研究する専門誌 Journal of Somaesthetics に掲載された。この論文において、ヘルダーの共通感覚論が「生の術」の議論と結びついていることを明らかにした。「生の術」というと、20世紀後半にミシェル・フーコーがこの概念を新たに彫琢したことが想起されるが、私は「生の術」という概念が18世紀においてすでに中核的な概念となりつつあったことに気づき、さらにシラー、シュレーゲルのうちにこの概念の意義を探る研究に従事した。シラーに関しては、中国での開催された美育に関する国際会議、ならびに国際シェリング協会主催の研究大会での招待講演などをとおして、研究を進め、その成果の一部は上述の『美学』第 X 章に文章化した。この研究の新たな点は、シラーの「美的教育書簡」の中核に「美的生」ないし「生の術」という概念が位置することを示し、さらに、この「美的生」ないし「生の術」を自然の過剰という点から明らかにしたことにある。
- (3)に関しては、とりわけ Journal of Aesthetics and Phenomenology 雑誌の特集号 The Unconscious の編纂をとおして研究を進めることができた。「共通感覚」は、対象へと向かう通常の感覚とは異なり、普通は意識に上ることがないが、この点に留意して、フロイトの心理学説に還元されることのない「無意識」概念を 18 世紀から 20 世紀にいたるまでの哲学的処理論のうちに再検討することを企てて、7 名の研究者(内訳はドイツ人と日本人各 2 名、ドイツ人 2 名、フランス人、イギリス人、カナダ人各 1 名)に声を掛け、特集を組んだ。主題的には 18 世紀のライプニッツ、19 世紀初頭のメーヌ・ド・ビラン、20 世紀のカッシーラー、ヴァレリー、メルロ=ポンティなどを扱う本特集号は、この主題に関する最新の成果をまとめるものである。ちなみに、私はその「序文」において、カント的統覚を逃れるものとして、カントの同時代人であるカール・フィリップ・モーリッツのいう「私は考える」から区別される「と私には思える」に関する議論を取り上げたが、この区別は私の知る限り今までの研究において論じられることのなかったものである。
- (4)に関しては、この4年間では中心的に扱うことができなかったが、しかし、機会あるごとに研究を続けた。例えば、(3)でも触れた「序文」、および2018年にワイマールの古典財団で開催された国際会議「東アジア文化圏における古典概念」における報告(「近代日本における「古典」概念の成立」)においても、日本の共通感覚論の意義について触れた。この点について議論を深めることは、今後の課題としたい。

## 5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件(うち査読付論文 3件/うち国際共著 3件/うちオープンアクセス 8件)

1.著者名	4 . 巻
小田部胤久	27
2.論文標題	5.発行年
シェリング『芸術の哲学』における「範例性」と「独創性」 その歴史的文脈の体系的再構成の試み	2019年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
シェリング年報	60-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.32297/schellingjahrbuch.27.0_60	無
<b>  オープンアクセス</b>	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-
1.著者名	4.巻
小田部胤久	38
2.論文標題	5 . 発行年
(実践的)無関心と(美的)関与 美の無関心性説 再考	2019年
Common Table 199	
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
2018年にワイマールの古典財団で開催された国際会議「東アジア文化圏における古典概念」における報告	印刷中
(「近代日本における「古典」概念の成立」)においても、美学芸術学研究	
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.15083/00079396	無
10.1000,000	<del>////</del>
オープンアクセス	国際共著
	<b>四际</b> 六百
オープンアクセスとしている(また、その予定である)	-
1.著者名	4 . 巻
1.著者名 Tanehisa Otabe	4.巻 38
Tanehisa Otabe	38
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題	5 . 発行年
Tanehisa Otabe	38
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics	38 5.発行年 2019年
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics	38 5.発行年 2019年
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名 JTLA	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名 JTLA	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著 -
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Tanehisa Otabe	38 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Tanehisa Otabe  2. 論文標題	38 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 6 5.発行年
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Tanehisa Otabe  2. 論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of	38 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Tanehisa Otabe  2. 論文標題	38 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著 - 4.巻 6 5.発行年
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 6
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 雑誌名	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 6 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
Tanehisa Otabe  2.論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3.雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Tanehisa Otabe  2.論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 6
Tanehisa Otabe  2. 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3. 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1. 著者名 Tanehisa Otabe  2. 論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3. 雑誌名	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 6 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 雑誌名 Culture and Dialogue	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 6 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 35-50
Tanchisa Otabe  2.論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3.雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Tanchisa Otabe  2.論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3.雑誌名 Culture and Dialogue	38 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 無 国際共著  4.巻 6 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 35-50  査読の有無
Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 雑誌名 Culture and Dialogue	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中 査読の有無 無 国際共著 - 4 . 巻 6 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 35-50
Tanchisa Otabe  2.論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3.雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Tanchisa Otabe  2.論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3.雑誌名 Culture and Dialogue	38 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 無 国際共著  4.巻 6 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 35-50  査読の有無
Tanehisa Otabe  2.論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3.雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Tanehisa Otabe  2.論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3.雑誌名 Culture and Dialogue  掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1163/24683949-12340040	38 5 . 発行年 2019年 6 . 最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 無  国際共著 - 4 . 巻 6 5 . 発行年 2018年 6 . 最初と最後の頁 35-50  査読の有無 有
Tanchisa Otabe  2.論文標題 The Significance of the Classics (koten) in Modern Japanese Aesthetics  3.雑誌名 JTLA  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15083/00079297  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1.著者名 Tanchisa Otabe  2.論文標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3.雑誌名 Culture and Dialogue	38 5.発行年 2019年 6.最初と最後の頁 印刷中  査読の有無 無 国際共著  4.巻 6 5.発行年 2018年 6.最初と最後の頁 35-50  査読の有無

1 <del>**</del>	4 . 巻
1.著者名 Tanehisa Otabe	4 · 술 42/43
Talletitsa Otabe	42/43
2.論文標題	5 . 発行年
Three Aspects of Being Aesthetic in Kant's CPJ: Becoming Aesthetically Conscious, Aesthetic	2018年
Magnitude, and Aesthetic Ideas	こ 目知し目後の五
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
JTLA	61-67
日報会会の1011(プングローナイング) カー神印フン	本誌の左领
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.15083/00076543	無
オープンアクセス	国際共著
オープンテクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	- 四际代有 -
オープンデクセスとしている(また、その)たてのる)	-
1.著者名	4 . 巻
	42/43
Tanehisa Otabe	42/43
2 . 論文標題	5 . 発行年
Alexander Baumgarten, "Psychologia empirica" (§ § 504-623) aus der "Metaphysica", mit	2018年
kritischem Apparat	6 見知し見後の百
3 . 雑誌名	6.最初と最後の頁
JTLA	69-94
	査読の有無
3年以前 又 ひ D O T (	
10.15083/00076544	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアッセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	- 国际共有 
オーププテクセスとしている(また、との)たとのな)	-
1 . 著者名	4.巻
Tanehisa Otabe	1
Talletti Sa Otabe	'
2 . 論文標題	5 . 発行年
Intercultural decontextualization and recontextualization in the globalized era: with a special	2017年
focus on the idea of the "Aesthetic Life" in modern Japan	て 目知し目後の五
	6.最初と最後の頁
3. 雅誌石 Proceeding of ICA 2016	92-97
Proceeding of ICA 2016	92-97
Proceeding of ICA 2016 掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)	92-97   査読の有無
Proceeding of ICA 2016	92-97
Proceeding of ICA 2016 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	92-97 査読の有無 無
Proceeding of ICA 2016 <b>曷載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子)</b> なし オープンアクセス	92-97 査読の有無 無 国際共著
Proceeding of ICA 2016 引載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	92-97 査読の有無 無
Proceeding of ICA 2016  掲載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	92-97 査読の有無 無 国際共著 該当する
Proceeding of ICA 2016	92-97 査読の有無 無 国際共著 該当する
Proceeding of ICA 2016 引載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	92-97 査読の有無 無 国際共著 該当する
Proceeding of ICA 2016  引載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe	92-97  査読の有無 無  国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6
Proceeding of ICA 2016 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe 2 . 論文標題	92-97  査読の有無 無  国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6  5 . 発行年
Proceeding of ICA 2016	92-97  査読の有無 無 国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6
Proceeding of ICA 2016 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The "Aesthetic Life": a Leitmotif in Modern Japanese Aesthetics	92-97  査読の有無 無  国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6  5 . 発行年 2018年
Proceeding of ICA 2016  引載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The "Aesthetic Life": a Leitmotif in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名	92-97  査読の有無 無  国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6  5 . 発行年
Proceeding of ICA 2016 掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The "Aesthetic Life": a Leitmotif in Modern Japanese Aesthetics	92-97  査読の有無 無  国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6  5 . 発行年 2018年
Proceeding of ICA 2016  曷載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The "Aesthetic Life": a Leitmotif in Modern Japanese Aesthetics 3 . 雑誌名	92-97  査読の有無 無 国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6  5 . 発行年 2018年  6 . 最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 1 . 著者名 Tanehisa Otabe 2 . 論文標題 The "Aesthetic Life": a Leitmotif in Modern Japanese Aesthetics 3 . 雑誌名 Contemporary Aesthetics	92-97  査読の有無 無 国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6  5 . 発行年 2018年  6 . 最初と最後の頁 no page
Proceeding of ICA 2016  引載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The "Aesthetic Life": a Leitmotif in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名 Contemporary Aesthetics	92-97  査読の有無 無 国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6  5 . 発行年 2018年  6 . 最初と最後の頁 no page
Proceeding of ICA 2016  引載論文のDOI(デジタルオプジェクト識別子) なし  オープンアクセス  オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The "Aesthetic Life": a Leitmotif in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名 Contemporary Aesthetics	92-97  査読の有無 無 国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6  5 . 発行年 2018年  6 . 最初と最後の頁 no page
Proceeding of ICA 2016  司載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)  1 . 著者名 Tanehisa Otabe  2 . 論文標題 The "Aesthetic Life": a Leitmotif in Modern Japanese Aesthetics  3 . 雑誌名 Contemporary Aesthetics	92-97  査読の有無 無 国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6  5 . 発行年 2018年  6 . 最初と最後の頁 no page  査読の有無 有
Proceeding of ICA 2016   掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)なし   オープンアクセス	92-97  査読の有無 無 国際共著 該当する  4 . 巻 Special Issue 6  5 . 発行年 2018年  6 . 最初と最後の頁 no page

Tamehisa Otabe		
2 : 論文権語 Die "Einbildungskraft" und der 'innere Sinn'. Kants Kritik der Urteilskraft aus der Sicht der Alsthetik Alsthetik 3 : 続格名 Aesthetics 6 : 最初と最後の頁 1-12	1.著者名	4 . 巻
2 : 論文権語 Die "Einbildungskraft" und der 'innere Sinn'. Kants Kritik der Urteilskraft aus der Sicht der Alsthetik Alsthetik 3 : 続格名 Aesthetics 6 : 最初と最後の頁 1-12		
Die 'Einbildungskraft' und der "innere Sinn". Kants Kritik der Urteilskraft aus der Sicht der Alstheitka	Tallottica Stabo	
Die 'Einbildungskraft' und der "innere Sinn". Kants Kritik der Urteilskraft aus der Sicht der Alstheitka	A AA LEDE	- 7V./
Alsthetik   Alsthetics   Compared to the c	2.論文標題	5.発行年
Alsthetik   Alsthetics   Compared to the c	Die "Einbildungskraft" und der "innere Sinn". Kants Kritik der Urteilskraft aus der Sicht der	2018年
3 . 熱診を Aesthetics	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
### Aesthetics		6 目知し目後の五
接載論文の0001 (デジタルオブジェクト識別子) なし   大き名名	3.雜誌名	6.最例と最後の貝
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 該当する	Aesthetics	1-12
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 該当する		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 該当する		
なし 有 オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である) 国際共著 該当する		
1 著名名	掲載論又のDOI(アンタルオノンェクト識別子)	<b>登読の有無</b>
1 著名名	なし	有
T 著名名		
T 著名名	ナープンフクセフ	
1 ・ 著名名		
1 ・ 著名名	オーブンアクセスとしている(また、その予定である)	該当する
小田郎胤久     1105       2 . 論文標題「生の技術」としての芸術 晩年のヘルダーの美学的思考の帰趣     5 . 飛行年 2016年       3 . 雑誌名     6 . 最初と最後の頁 36-54       掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子)なし     直読の有無 無       オープンアクセス     国際共著 - 1 . 著者名		
小田郎胤久     1105       2 . 論文標題「生の技術」としての芸術 晩年のヘルダーの美学的思考の帰趣     5 . 飛行年 2016年       3 . 雑誌名     6 . 最初と最後の頁 36-54       掲載論文の001(デジタルオプジェクト識別子)なし     直読の有無 無       オープンアクセス     国際共著 - 1 . 著者名	4 英老权	4 <del>**</del>
2 - 論文標題 「生の技術」としての芸術 晩年のヘルダーの美学的思考の帰趨  3 - 雑誌名 思想  1 - 著名名 小田部胤久  1 - 著名名 カント研究  2 - 論文標題 カント研究  2 - 論文標題 カント研究  2 - 論文によりにない。又はオープンアクセスが困難  1 - 著名名 カント研究  2 - 論文標題 カント研究  2 - 論文標題 カント研究  3 - 神話と最後の頁 37 - 46  第四 ・ 一 カーブンアクセスではない。又はオープンアクセスが困難  1 - 著名名 カント研究  2 - 論文標題 カント研究  3 - 神話を表している。 カント研究  4 - 巻 17  2 - 論文標題 「美的生活」論争の射程  3 - 雑誌名 日本の哲学  3 - 雑誌名 日本の哲学  4 - 巻 17  2 - 語文様題 「美的生活」論争の射程  3 - 雑誌名 日本の哲学  4 - 巻 17  2 - 語文様題 「美の子によりに表している。 第一 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・		_
「生の技術」としての芸術 晩年のヘルダーの美学的思考の帰趨       2016年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁         掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)なし       国際共著         1 . 著名名	小田部胤久	1105
「生の技術」としての芸術 晩年のヘルダーの美学的思考の帰趨       2016年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁         掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)なし       国際共著         1 . 著名名		
「生の技術」としての芸術 晩年のヘルダーの美学的思考の帰趨       2016年         3 . 雑誌名       6 . 最初と最後の頁         掲載論文の001 (デジタルオブジェクト識別子)なし       国際共著         1 . 著名名	2 - 全个大田時	E ※行在
3 . 雑誌名 8 想 6 . 最初と最後の頁 36-54		
思想	' 生の技術 」としての芸術	2016年
思想		
思想	3. 独社夕	6 是初と是後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 小田部胤久 2 . 論文標題 『判断力批判』において aesthetisch とは何を意味するのか aesthetisch に意識すること、 aesthetisch な量評価、aesthetisch な理念をめぐって 3 . 雑誌名 カント研究  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難  1 . 著者名 小田部胤久 1 . 著者名 小田部胤久 2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程 3 . 雑誌名 日本の哲学  超談るのDOI(デジタルオブジェクト識別子) なよ  3 . 雑誌名 日本の哲学  超談るのDOI(デジタルオブジェクト識別子) なよ  3 . 雑誌名 日本の哲学  超談の有無 なり 第一次 また。		
### オープンアクセス	思想	36-54
### オープンアクセス		
### オープンアクセス		
### オープンアクセス	相手会かのPOL / デジカルナイジーカー部ロフン	本芸の左仰
オーブンアクセス オーブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 - 1 著者名 小田部胤久 4.巻 17 5.発行年 7判断力批判。において aesthetisch とは何を意味するのか aesthetisch に意識すること、 aesthetisch な量評価、aesthetisch な理念をめぐって 3.雑誌名 カント研究 5. 飛行年 2016年 2016年 3. 雑誌名 カント研究 5. 最初と最後の頁 37-46 国際共著 4. ブンアクセスではない、又はオーブンアクセスが困難 1 著者名 小田部胤久 4.巻 17 5. 発行年 2016年 3. 雑誌名 6. 最初と最後の頁 37-46 日本の哲学 5. 発行年 2016年 5. 単純 20		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1. 著者名 小田部胤久       4. 巻 17         2. 論文標題 * 判断力批判』において aesthetisch とは何を意味するのか aesthetisch に意識すること、aesthetisch な量評価、aesthetisch な理念をめぐって       5. 発行年 2016年         3. 雑誌名 カント研究       6. 最初と最後の頁 37-46         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       重誘の有無 無         1. 著者名 小田部胤久       4. 巻 17         2. 論文標題 「美的生活」論争の射程       5. 発行年 2016年         3. 雑誌名 日本の哲学       6. 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       6. 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	なし	無無
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1. 著者名 小田部胤久       4. 巻 17         2. 論文標題 * 判断力批判』において aesthetisch とは何を意味するのか aesthetisch に意識すること、aesthetisch な量評価、aesthetisch な理念をめぐって       5. 発行年 2016年         3. 雑誌名 カント研究       6. 最初と最後の頁 37-46         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       重誘の有無 無         1. 著者名 小田部胤久       4. 巻 17         2. 論文標題 「美的生活」論争の射程       5. 発行年 2016年         3. 雑誌名 日本の哲学       6. 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       6. 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1. 著者名 小田部胤久       4. 巻 17         2. 論文標題 * 判断力批判』において aesthetisch とは何を意味するのか aesthetisch に意識すること、aesthetisch な量評価、aesthetisch な理念をめぐって       5. 発行年 2016年         3. 雑誌名 カント研究       6. 最初と最後の頁 37-46         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       重誘の有無 無         1. 著者名 小田部胤久       4. 巻 17         2. 論文標題 「美的生活」論争の射程       5. 発行年 2016年         3. 雑誌名 日本の哲学       6. 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       6. 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	オーゴンマクセフ	国際井茎
1 . 著者名		国际共有
小田部胤久     17       2 . 論文標題 『判断力批判』において aesthet isch とは何を意味するのか aesthet isch な量評価、aesthet isch な理念をめぐって     5 . 発行年 2016年       3 . 雑誌名 カント研究     6 . 最初と最後の頁 37-46       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし     重読の有無 無       オープンアクセス     国際共著 - 17       1 . 著者名 小田部胤久     4 . 巻 17       2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程     5 . 発行年 2016年       3 . 雑誌名 日本の哲学     6 . 最初と最後の頁 52-67       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし     査読の有無 無       オープンアクセス     国際共著	オーフンアクセスではない、又はオーフンアクセスが困難	-
小田部胤久     17       2 . 論文標題 『判断力批判』において aesthet isch とは何を意味するのか aesthet isch な量評価、aesthet isch な理念をめぐって     5 . 発行年 2016年       3 . 雑誌名 カント研究     6 . 最初と最後の頁 37-46       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし     重読の有無 無       オープンアクセス     国際共著 - 17       1 . 著者名 小田部胤久     4 . 巻 17       2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程     5 . 発行年 2016年       3 . 雑誌名 日本の哲学     6 . 最初と最後の頁 52-67       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし     査読の有無 無       オープンアクセス     国際共著		
小田部胤久     17       2 . 論文標題 『判断力批判』において aesthet isch とは何を意味するのか aesthet isch な量評価、aesthet isch な理念をめぐって     5 . 発行年 2016年       3 . 雑誌名 カント研究     6 . 最初と最後の頁 37-46       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし     重読の有無 無       オープンアクセス     国際共著 - 17       1 . 著者名 小田部胤久     4 . 巻 17       2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程     5 . 発行年 2016年       3 . 雑誌名 日本の哲学     6 . 最初と最後の頁 52-67       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし     査読の有無 無       オープンアクセス     国際共著	1 英字夕	A 券
2 . 論文標題		
『判断力批判』において aesthet isch とは何を意味するのか aesthet isch な量評価、aesthet isch な理念をめぐって       aesthet isch な量評価、aesthet isch な理念をめぐって         3 . 雑誌名 カント研究       6 . 最初と最後の頁 37-46         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 小田部胤久       4 . 巻 17         2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 日本の哲学       6 . 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	小田部胤久	17
『判断力批判』において aesthet isch とは何を意味するのか aesthet isch な量評価、aesthet isch な理念をめぐって       aesthet isch な量評価、aesthet isch な理念をめぐって         3 . 雑誌名 カント研究       6 . 最初と最後の頁 37-46         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 小田部胤久       4 . 巻 17         2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 日本の哲学       6 . 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
『判断力批判』において aesthet isch とは何を意味するのか aesthet isch な量評価、aesthet isch な理念をめぐって       aesthet isch な量評価、aesthet isch な理念をめぐって         3 . 雑誌名 カント研究       6 . 最初と最後の頁 37-46         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       重読の有無 無         オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 小田部胤久       4 . 巻 17         2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 日本の哲学       6 . 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオプジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	2 論立種類	5 発行任
aesthet isch な量評価、aesthet isch な理念をめぐって       6 . 最初と最後の頁 37-46         3 . 雑誌名 カント研究       査読の有無 無         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       国際共著 -         1 . 著者名 小田部胤久       4 . 巻 17         2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 日本の哲学       6 . 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
3 . 雑誌名 カント研究       6 . 最初と最後の頁 37-46         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       国際共著         1 . 著者名 小田部胤久       4 . 巻 17         2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 日本の哲学       6 . 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		2016年
カント研究     37-46       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし     査読の有無無無       オープンアクセス     国際共著・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	aesthetisch な量評価、aesthetisch な理念をめぐって	
カント研究     37-46       掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし     査読の有無無無       オープンアクセス     国際共著・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3 雑誌名	6 最初と最後の百
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
# 日際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 日際共著 - 1 . 著者名 小田部胤久 4 . 巻 17	カント研究	37-46
# 日際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 日際共著 - 1 . 著者名 小田部胤久 4 . 巻 17		
# 日際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 日際共著 - 1 . 著者名 小田部胤久 4 . 巻 17		
# 日際共著 オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 - 日際共著 - 1 . 著者名 小田部胤久 4 . 巻 17	掲載論文のDOL (デジタルオブジェクト識別子)	<u>.</u>   杏詰の右無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難  1 . 著者名 小田部胤久  2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程  3 . 雑誌名 日本の哲学  掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし  オープンアクセス  国際共著		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 小田部胤久       4 . 巻 17         2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 日本の哲学       6 . 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	なし	
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 小田部胤久       4 . 巻 17         2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 日本の哲学       6 . 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難       -         1 . 著者名 小田部胤久       4 . 巻 17         2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 日本の哲学       6 . 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著	オープンアクセス	国際共著
1 . 著者名 小田部胤久       4 . 巻 17         2 . 論文標題 「美的生活」論争の射程       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 日本の哲学       6 . 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		
小田部胤久172.論文標題 「美的生活」論争の射程5.発行年 2016年3.雑誌名 日本の哲学6.最初と最後の頁 52-67掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	オーノファクセスではない、 又はオーノンアクセスか困難	-
小田部胤久172.論文標題 「美的生活」論争の射程5.発行年 2016年3.雑誌名 日本の哲学6.最初と最後の頁 52-67掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
小田部胤久172.論文標題 「美的生活」論争の射程5.発行年 2016年3.雑誌名 日本の哲学6.最初と最後の頁 52-67掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	1 茅老名	4
2 . 論文標題「美的生活」論争の射程       5 . 発行年 2016年         3 . 雑誌名 日本の哲学       6 . 最初と最後の頁 52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)なし       査読の有無 無         オープンアクセス       国際共著		_
「美的生活」論争の射程2016年3.雑誌名 日本の哲学6.最初と最後の頁 52-67掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	小型品的	''
「美的生活」論争の射程2016年3.雑誌名 日本の哲学6.最初と最後の頁 52-67掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著		
「美的生活」論争の射程2016年3.雑誌名 日本の哲学6.最初と最後の頁 52-67掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし査読の有無 無オープンアクセス国際共著	2 . 論文標題	5 . 発行年
3.雑誌名       6.最初と最後の頁         日本の哲学       52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       無         オープンアクセス       国際共著		
日本の哲学       52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       無         オープンアクセス       国際共著	天四王/ロコ・囲ずの別任	ZU10 <del>'+</del>
日本の哲学       52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       無         オープンアクセス       国際共著		
日本の哲学       52-67         掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)       査読の有無         なし       無         オープンアクセス       国際共著	3.雑誌名	6.最初と最後の頁
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)		
なし 無 オープンアクセス 国際共著	ロザンロテ	32-01
なし 無 オープンアクセス 国際共著		
なし 無 オープンアクセス 国際共著		
なし 無 オープンアクセス 国際共著	担動会立のDOL / デジタルナブジェクト禁門フト	
オープンアクセス 国際共著	物料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
		<b>#</b>
		無
	なし	無 <u> </u>
カーノファフ ヒヘ Clada い、 スはカーノファフ ヒヘル 凶無	なし	
	なし オープンアクセス	

1.著者名 Tanehisa Otabe	4.巻 40/41
2.論文標題	5.発行年
Schoene Kunst als "Kunst zu leben". Das aesthetische Denken des spaeten Herder	2016年
3.雑誌名	6.最初と最後の頁
JTLA	61-74
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子)	査読の有無
10.15083/00040375	無
オープンアクセス	国際共著
オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	-

#### 〔学会発表〕 計19件(うち招待講演 16件/うち国際学会 15件)

1.発表者名

Tanehisa Otabe

2 . 発表標題

"Minute Perceptions": Aesthetics in the Century of Empirical Psychology

3.学会等名

Humboldt Kolleg: Neoronale Geisteswissenschaften und empirische Aesthetik (招待講演) (国際学会)

4.発表年 2019年

1.発表者名

Tanehisa Otabe

2 . 発表標題

Das "Exemplarische" und die "Originalitaet" in der fruehromantischen Aesthetik

3 . 学会等名

Wie theoriefaehig ist die Fruehromantik heute? Internationale germanistische Tagung (招待講演) (国際学会)

4.発表年

2019年

1.発表者名

Tanehisa Otabe

2 . 発表標題

(Practical) Disinterestedness and (Aesthetic) Involvement: Kant's Aesthetic Theory Revisited

3.学会等名

21st International Congress of Aesthetics (国際学会)

4.発表年

2019年

1.発表者名
Tanehisa Otabe
2.発表標題
2. 完衣信題 Kunst und Leben in Schillers aesthetischer Theorie
Ruist und Leben im Schriffers destrietrischer meorie
3.学会等名
Das Unendliche endlich dargestellt. Schellings Philosophie der Kunst im Kontext der Aesthetik und Kunst um 1800(招待講演)
(国際学会)
4.発表年
2019年
1.発表者名
小田部胤久
2.発表標題
2. 光衣標題 民衆の発見と芸術の誕生
氏象の充元と云州の誕王
3.学会等名
ファウストの文化史(招待講演)(国際学会)
4.発表年
2019年
1. 発表者名
Tanehisa Otabe
2.発表標題
Zur Historigraphie der ostasiatischen Kunstgeschichte unter den globalen Bedingungen
3 . 学会等名
Humboldt Kolleg: The Reflexion on Culture and Art in the Age of Globalization(招待講演)(国際学会)
4. 発表年
2019年
4
1.発表者名 - 小田知恩在
小田部胤久
2.発表標題
近代日本における「古典」概念の成立 1880年から1920年まで
3 . 学会等名
日本ヘルダー学会(招待講演)
4 . 発表年
2018年

1.発表者名 Tanehisa Otabe
2.発表標題
Das "Exemplarische" und die "Originalitaet" in Schellings "Philosophie der Kunst". Versuch einer Rekonstruktion aus historisch-systematischer Sich
3.学会等名 日本シェリング協会(招待講演)
4. 発表年     2018年
1 . 発表者名 Tanehisa Otabe
2.発表標題 The Significance of the Classics (koten: 古典) in Modern Japanese Aesthetics
3.学会等名 24th World Congress for Philosophy(招待講演)(国際学会)
4.発表年 2018年
1.発表者名 Tanehisa Otabe
2. 発表標題 Defining the Aesthetic Life: Revisiting Schiller's Concept of the Aesthetic Education
3.学会等名 International Conference: The Ideas and Practice of Contemporary Aesthetic Education and Att Education(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 Tanehisa Otabe
2. 発表標題 Thee Aspects of Being Aesthetic in Kant's CPJ: Becoming Aesthetically Conscious, Aesthetic Estimation of Magnitude, and Aesthetic Idea

3 . 学会等名

4 . 発表年 2017年

Seoul National University, Institute of Aesthetics (招待講演) (国際学会)

1.発表者名 小田部胤久
2 . 発表標題 カント『判断力批判』における範例性をめぐって 範例的必然性と範例的独創性
3.学会等名 新プラトン主義協会(招待講演)
4 . 発表年 2017年
1.発表者名 Tanehisa Otabe
2 . 発表標題 The "I Think" and "the I Feel" in Kant's critique of the Power of Judgment
3 . 学会等名 Workshop: Feelings and Emotion in Philosophy, Utrecht University(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 Tanehisa Otabe
2 . 発表標題 Genese einer am westlichen Klassik-Ideal orientierten Kunstgeschichtsschreibung in Japan,
3.学会等名 Konzepte des Klassischen in Ostasiatischen Kulturen(招待講演)(国際学会)
4 . 発表年 2018年
1.発表者名 小田部胤久
2.発表標題 パリのイロクォイ人と孤島のロビンソン カント美学と文明化の過程
3 . 学会等名 美学会東部会
4.発表年 2016年

1.発表者名
Tanehisa Otabe
2.発表標題
The "Debate on the Aesthetic Life" in Late Meiji Japan: Intercultural Decontextualization and Recontextualization
The Debate on the Aesthetic Life in Late Weiji Japan. Intercurtural Decontextuarization and Recontextuarization
3.学会等名
Internaitional Congress for Aesthetics(招待講演)(国際学会)
THO HATTISHAT CONGRESS TO THOSE CHARACTERS (1月7日 日本子女)
A BET
4 . 発表年
2016年
1.発表者名
Tanehisa Otabe
Tailottisa otabo
2 . 発表標題
An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization
3.学会等名
Internaitonal Society for the Eighteenth-Century Studies(国際学会)
4.発表年
2016年
2010 1
1 改丰之存
1 . 発表者名
1.発表者名 Tanehisa Otabe
Tanehisa Otabe
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題
Tanehisa Otabe
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会 (招待講演) (国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名
Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization
2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 Internal Debate: Culture and dialogue(招待講演)(国際学会)
2. 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3. 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4. 発表年 2016年  1. 発表者名 Tanehisa Otabe  2. 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3. 学会等名 Internal Debate: Culture and dialogue(招待講演)(国際学会)  4. 発表年
2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4 . 発表年 2016年  1 . 発表者名 Tanehisa Otabe  2 . 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3 . 学会等名 Internal Debate: Culture and dialogue(招待講演)(国際学会)
2. 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3. 学会等名 中華美学会(招待講演)(国際学会)  4. 発表年 2016年  1. 発表者名 Tanehisa Otabe  2. 発表標題 An Iroquois in Paris and a Crusoe on a Desert Island: Kant's Aesthetics and the Process of Civilization  3. 学会等名 Internal Debate: Culture and dialogue(招待講演)(国際学会)  4. 発表年

[図	書 〕	計1	件

1 . 著者名	4.発行年
小田部 胤久	2020年
2.出版社	5.総ページ数
東京大学出版会	480
NOSON S MINE Z	
3 . 書名	
美学	
~ 1	

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

_ ( COMB)	
東京大学文学部 美学芸術学研究室	
http://www.l.u-tokyo.ac.jp/bigaku/staff.html#otabe	
Tanehisa Otabe	
https://u-tokyo.academia.edu/	
http://www.l.u-tokyo.ac.jp/bigaku/staff.html#otabe	
http://www.l.u-tokyo.ac.jp/bigaku/staff.html#otabe	
http://www.l.u-tokyo.ac.jp/bigaku/staff.html#otabe	

6.研究組織

0	- H/1 / C/NILL NEW		
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------